

主の确实性に歩むOBI



理事長・学院長

増田 誉雄

「あなたが歩む一歩一歩
私はあなたの前に道をひらく」
(箴言四12シリヤ語訳)

をもつてご指導、ご協力ください
ましたことを心より感謝申し上げます。

主にあつて新年のご挨拶を申
し上げます。おかげさまにて、
OBIも17年目を迎えることに
なりますが、これまで篤い祈り

年頭にあたりましてOCC創
立者アイリーン・ウェブスター
スミス宣教師がモットーとしてお
られました右の聖句の摂理的継承
としてのOBIの歴史を覚え、主



に感謝しております。OCC
の活動の一翼として教育部が
始まったのは1983年でし
た。1991年には新しい時
代のチャレンジに応えてお茶
の水聖書学院が誕生しました。
それは、「一歩一歩」の導きの
中であつてであり、生みの苦
しみもあつたと同時に、生み
出されたものへの絶大なる喜
びの伴うことでもありました。
結実としましてこれまでに155
名の卒業生を輩出することが
できました。

さて、不确实性の中の新年
であります。明日を知り、
導く方にゆだねてもう「一歩」
前進いたしたく存じます。思
うに、OBIの始めも、「どこ
に行くのかを知らない」アブ
ラハムに倣う旅立ちでした。夏
のスクーリング、同窓会、後
援会、理事会、無限責任中間
法人、評議員会、ネットコー
スなどの立ち上げと振り返つ
てみると驚くばかりの主の不
思議による歩みでした。

また教師陣にも経験豊かで
有能な方々が次々と加えられ、
諸教会の牧師先生方にも信頼
して信徒の方々をお送りいた
だいてよい関係が築きあげら
れていくのはこの上ない感謝
です。ある学院生がアメリカ
の教会を見てきて、「向こうで
は牧師が信頼され、尊敬され、
愛されているんですね。日本
でもあのようにならないけれ
ば……。」と申すのでした。それ
こそ、OBIの目指す牧会協
力者像ですと語り合つたこと
でした。このような関係の深
化にもう「一歩」進む年であ
れかしと祈るものです。

また、今年の主のみわざに
ビジョンを膨らませています
が、その拠は——「あなたの道
を主にゆだねよ。主に信頼せ
よ。主が成し遂げてくださる」
(詩篇三七5)です。

何とぞ、本年もお祈りとと
もに、ご指導、ご協力をよろ
しくお願い申し上げます。

教会音楽デー

教会音楽講師・斉藤とし子

いつも学院の働きのためにお祈りくださり、心より感謝申し上げます。10月21日に開催されました教会音楽デーのご報告をいたします。第七回にあたる今回は、テーマに「全地よ主に向かいて喜ばしき声をあげよ。」詩篇100篇のみことばを掲げ、聖歌隊奉仕に重荷を持たれている30名ほどの方々が受講されました。旧



約の時代から今日まで、聖歌隊は礼拝の中で大切な役割を担ってきました。詩篇96篇には「主に歌え。御名をほめたたえよ。日から日へと御救いの良い知らせを告げよ。」と勧められているように、神様を賛美し、その良い知らせを告げ知らせることは聖歌隊の大切な務めです。けれども現実の教会の中では、聖歌隊のご奉仕にあたり、少なからず皆さんが困難を覚えておられるようです。「人数が集まらない」「練習の時間を確



保するのが難しい」「しっかりと指導してくれる人材がいらない」等々。そのような問題に直面しながらも、主のために励んでおられる音楽奉仕者の方々が共に集い、礼拝における聖歌隊の役割や奉仕の姿勢をみことばから学びました。又、他教会の聖歌隊の方々との交わりを通して互いに励ましを受け、それぞれに奉仕への思いを新たにされていきました。

はじめに開会礼拝で、世良田湧侍先生から「ザカリヤの賛美」を通し、みことばに根ざした賛美についての説教がありました。続く演習では、飯島千雅子先生が申命記、歴代誌から「神を賛美し礼拝に仕える者の姿勢」について語られました。その後、呼吸法、発声法と実践的な訓練を経て、受講者が一つとなった聖歌隊で三つの課題曲を賛美しました。飯島先生の指導を受け、見る間に聖歌隊の賛美が『ことばを歌う』ように変えられていく場面には目を見張りました。ここで受講された方々の感想をいくつかご紹介いたします。『ことば』の持つ意味を改めて覚えさせられました。創造主なる

方が、ことばを持って全てをはじめられたことに心を向けて賛美をささげたいと願われました。」「(50代保育所勤務)「礼拝メッセー

ジの中で、賛美は聖書のみことばに立つものといわれたことが心にストンと落ちました。演習では、ことばの持つ意味を正確に伝える方法を教えて頂きありがたく思いました。」「(60代院生)「奉仕の姿勢、呼吸法、発声法すべてのことが初めての体験で、目からウロコ状態です。明日からの賛美に、新たな気持ちで臨みます。」「(50代主婦)」受講生の皆さんがそれぞれに大切な事を学ばれ、奉仕への新たな思いが与えられたことは大きな祝福でした。

教会音楽デーは毎年10月の下旬に開かれています。皆様の教会の音楽奉仕のために、有意義な学びの場として用いられるよう願っております。又現在、教会音楽科では12名の兄弟姉妹が学びに励んでおられます。

これからも、教会音楽科が主と教会に仕える奉仕者を養成するために用いられますよう、覚えてお祈りください。

学窓トピックス

・聖書科から

10月2日より後期授業が開始され、いくつか新しい試みが始まりました。今学期は、毎週月曜日15時半～17時の日程で、中島總一郎氏による『聖書人生講座』が新設科目として始まりました。OB I卒業生による特別講座の開設に今後も期待してまいりたいと思います。また月曜夜開講の「教会史」



新講師：中島總一郎さん【聖書人生講座】

では、TV会議システムを採用し、インターネットでリアルタイムに授業を配信する試みを始めています。

来年3月卒業予定の、吉村瑠美子さん、伊藤洋子さん、坂口幸紀さん、小林義則さんの卒業研究が進められています。よい学びのまとめができるように、主の助けをお祈りください。

この10月より、OB I在校生の加賀谷紀子さんのボランティアにより、図書整理が始まりました。約600冊の既存図書情報について、コンピューターでのデータ化が進められています。新学期までには完成する予定です。完成しましたら、教室内で専用パソコンを使用して図書検索ができるようになります。今後、図書貸し出し利用の開始と、神学校での学習に必要な基本図書の整備を進めていく予定です。

なお、来年3月14日（水曜日）～23日（金曜日）の10日間の日程で「お茶の水聖書学院主催・聖書の世界研修旅行」エジプト、ヨル

ダン、イスラエル」を企画予定しております。今回の団長は飯島勅講師、チャブレンは藤原導夫副学院院长です。

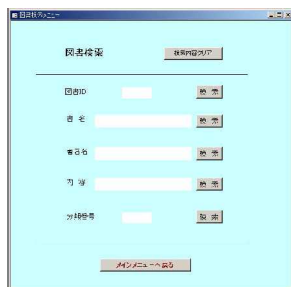
・ネットコースから

ネットコースでは、この10月より学習システムの変更を行いました。パソコンに慣れないという方々のために、FAX、郵便による学習方法を整備いたしました。FAX、郵便での履修をご希望の方は、教務までご連絡ください。受講登録申請書類等をお送りいたします。

また、インターネット接続シ



↑ 開発中の図書管理システム ↓



↑ 図書検索中の加賀谷さん



システムについては、新しくネットマン社製のC-Learningシステムを採用しました。このシステムは、高等教育機関、大手シンクタンク企業などでも用いられているもので、一部携帯での学習も可能です。

これまでのシステムでは、教師学生間、一対一の個人学習が中心でしたが、このシステムでは教師と学生グループの複数相互学習が可能であり、お互いのレポートを公開し合い、学び合うことができるなど、学習仲間間で刺激し合うことができます。ぜひ、教会の兄弟姉妹、また信仰仲間と一緒に受講されることをお勧めいたします。

現在、新たに臨床牧会学入門（下）、聖書重要教理（下）、旧約聖書概観（下）、続あかし文章講座、ローマ書、牧会書簡、キリスト教説教入門、教会教育入門が開講科目として追加されています。

また今後通学生の学ぶ授業が、自宅にいながら同時受講できる科目もご用意してまいりますので期待していただきたいと思います。

2007 年度（前期）講義予定

	月	火	水	木	金	土
11:00 ～ 12:30		新約聖書概観 （本科必修） 増田 誉雄		旧約聖書の思想と概説 Ⅰ（創世記からエズラ・ネ ヘミヤ時代まで） （本科必修）西 満	創世記解説 世良田湧侍	
13:30 ～ 15:00		教会史 - 時代は語る （本科必修） 横山 武		ルカの福音書 藤原導夫 研究科増田誉雄 （ジョン・パニヤン研究）	聖書がわかる、 解釈学入門 （本科必修） 山口勝政	
15:30 ～ 17:00		ライフサイクルと 信仰（堀肇）		明解！神学思想の歴史 （本科必修） 伊藤淑美	聖書と生涯 中島總一郎	
18:30 ～ 20:00		ローマ人への手紙 （河村從彦） 聖書教理概説（福井誠） （音楽科必修）		現代の宣教（グローバル 化時代の宣教学に学ぶ） 福井 誠	詩篇読解 羽鳥 栄	

学生の学習意欲に応え、さらに、わかりやすく身によく付く講義を目指して、新年度も、各担当教師に講義の準備をお願いいたしました。堀肇師「ライフサイクルと信仰」、伊藤淑美師「明解！神学思想の歴史」、藤原導夫師「ルカの福音書」、世良田湧侍師「創世記解説」は、新設科目です。

また新年度から、バランスのとれた学習に研鑽していただくためにも、本科必修科目の指定を設けました。本科受講の学生で今後の学習計画上、必修科目履修の予定などについて相談を必要とする方々は、ぜひ教務までお問い合わせください。学習相

談の機会を設けたく思っております。

また、来年度4月より、隔週火曜日夜7時～8時までの「聖書教理概説」（音楽科必修科目）、および毎週木曜日夜6時30分～8時までの「現代の宣教（グローバル化時代の宣教学に学ぶ）」は、インターネットのテレビ会議システムにより講義を同時に配信いたします。受講登録をし、以下の機材環境をご用意いただくと自宅にて受講できます。必要な機材環境は①パソコン、②ウェブカメラ、③ブロードバンドのインターネット回線です。詳しくは、教務までお問い合わせください。

主と教会に仕える 同窓生たち⑤

第11期生 戸川偕生

父の日からの出発

「主よ。あなたのみわざはなんと大きいことでしょう。あなたの御計らいは、いとも深いのです。」

(詩篇九十二・5)

今年の父の日は6月18日でした。この日の礼拝で私は増田先生より牧師就任の按手を受けました。その日から、腰越独立教会二代目の牧師として私の歩みが始まりました。

東京の品川から鎌倉の腰越に牧師一家の二男として家族共々引越して開拓伝道が始まったのが56年前、単立ゆえ経済的に苦しく、また日蓮宗の強い土地であったため近所からは疎外され、嫌がらせやいじめがありました。小学二年生だった私

はそのような生活が辛く、将来牧師だけには絶対にならないと心に誓いました。

そのような者が自分の意思に反して牧師になってしまおうとは、信じられないことです。OBIに入学するまでのこと、卒業後のこと、振り返って見ますと神様の導きであつたと思わざるをえません。卒業式には97歳になる父も出席してくれました。

翌月の教会総会において、私は伝道師に任命されました。ところが、まるでそれを待っていたかのように、元氣だった父が突然体調を崩し召されてしまいました。新任伝道師が教会の責任者になるという事態となつてしまいました。が、外部の牧師先生の協力を頂きながら2年間何とか過ごすことが出来ました。

今年4月の教会総会におい

て私は牧師に推挙されました。

私どもの教会は単立ですので、教会総会の承認があれば牧師に就任することが出来ますが、私自身、按手を頂いて牧師になりたいとの思いがありましたので、OBIの学院長増田先生にそのことを相談致しましたところ、快諾して下さい、しかも按手式の期日まで決めて下さいました。その期日は6月18日父の日です。父の遺志を継ぐという意味を込めてのことでした。

それから4ヶ月、伝道師の時とは違って信者の方々に対する責任を強く感じるようになりました。

説教の準備にも気を遣いますが、牧会には思いも付かないことが起きたりしますので適切な対応、特に御心にかなっているかどうかには気が遣います。牧師としては足りない

所だらけです。しかし神様が召して下さったとの確信がありますので、気負わず、焦らず、教会のかしらであるイエス様にお任せして歩んで参りたいと思います。

現在、礼拝出席者数は30名前後の小さい群れですが、量より質を忘れないようにと思っております。お祈り下さい。



イスラエルの地を訪ねて

副学院長 世良田湧侍

はじめに

前回までの、パウロの宣教旅行に続いて、イスラエルに目を向けることにいたします。たくさんさんの聖地旅行記がすでに発行されていますので、今更の感がありますが、しばらくご寛容いただければ幸いです。

お茶の水聖書学院では、1994年にイスラエルを、1996年にヨルダンからイスラエルへ入る旅行をいたしました。いずれも当時の「聖書地歴」の学科の延長でクラスの受講者の方々を中心に、現地へ出掛けて学ぶ体験旅行でした。その後、1998年にはトルコ・ギリシャを廻りました。その次に2000年に向けての企画は、イスラエルでの中東和平のプロセスが不安定となり、現地ではインテファダの投石による暴動や爆弾テロが頻繁に起こり、ゆつくり旅行が出来ないという状況になりました。したがって2000年の計画は中断せざるを得ませんでした。昨年トルコ方面に切

り替えて再開されましたことは感謝でした。

1. 聖地の第一夜

遙かなる聖地の旅の想い出と歌を詠みつつ巻を返す。

成田を発つてから3日目の夕刻、すでにイタリアのローマでの史跡を2泊の間に観光した後、ローマ経由でイスラエル国際空港、テルアビブ空港へ到着したのは1994年3月18日（金）現地時間で夕方4時頃のことでした。

空港からは夕暮れ時のバスでテルアビブ市内のホテルへと走り、イスラエル最初の夜をダン・パノラマ・ホテルで過ごしました。このホテルは地中海に面する海岸に建っており、すっかり日の暮れたテルアビブの夜景がまばゆいほどに輝いておりました。

その夜は、無事に到着したことを一同で神に感謝しました。旅の疲れでぐっすり眠り、翌朝、ホテルから海

岸に出て波打ち際に行ってみますと、朝の穏やかなペースで地中海の波がうち寄せては引いているのです。

2. テルアビブ・ヨツパの歴史

テルアビブは、歴史と街の古さではエルサレムにはかないませんが、人口や商業の盛んな国際都市としては、今日イスラエル最大の都市です。この街の南側には、聖書では有名なヨツパという港町が隣接しています。

翌朝、デボーシオンや食事を済ますと、バスで最初に立ち寄ったのがヨツパでした。ヨツパのことは、旧約聖書のヨナ書に出てきます。ヨナは神の召命を避けて、この港へやってきました。そこにちょうど停泊していたタルシシ行きの舟に、渡りに舟とばかり飛び乗って船出してしまいま



皮なめしシモンの家

逃避行をしていたヨナが咎められたのでした。このヨナの物語で有名な港町です。

新約時代には、ペテロが身をよせた、皮なめしシモンの家の話があります。バスでその家の近くまで行き、あとは徒歩でシモンの家へと向かいました。写真の今の家は、何回か建て替えた家だそうです。

近年のテルアビブでは、19世紀末からパレスチナへ帰ることを願うユダヤ人たちが、街の周辺の土地を購入入してきました。1948年5月、イスラエルが独立するとき、このテルアビブ・ヨツパは帰還するユダヤ人で溢れました。

年経れば変わり果てなむいにしへのペテロの訪ねしシモンの家も

ガリラヤ出身のユダヤ人ペテロにとつて、ヨツパは、かなり遠方になります。またそこで、カイザリヤへ向けて行くようにとの神の幻を受けて、しばしばじろぎ、気持ちの整理をするのもよくわかるような気がします。（使徒九43〜十章）

ペテロのユダヤ的先入観で異邦人に福音を伝えることが妨げになっていた

たのですが、神からの幻でそれを打破され、コルネリオというローマの百人隊長への宣教をすることになりました。その結果、福音がユダヤ人から異邦人へと拡大していくことの先鞭をつけたのでした。

3. カイザリヤ

テルアビブ空港（入国地）から、北に40キロ位のところに、地中海に面した港で、ローマのカイザリヤによって街が建設されたので、その名前がつけられました。ローマ総督の官邸があり、総督府として一時栄えました。パウロは、とらわれの身で、ここでペリクスやヘロデ・アグリッパに自ら弁明をするために議会に立つた



カイザリヤの港跡

ことがあります。また、しばらくこの地で、牢獄生活をしています。パウロを送り出した、港の跡があります。この地から「総督ピラト」に名前が入った石碑が出て、聖書の話しと史跡が一致し、歴史的な背景が聖書の出来事であることの歴史把握が出来たといえます。

地中海臨みて初夏の悲劇観る古代の貴族歴史語るや

野外劇場は、ローマが支配した都市には必ずと言ってよいほど建設されていました。この劇場は海岸に向かって建てられています。一番下の平らなところで行われる舞台で演じられるギリシヤ悲劇などを、涼しい潮風に吹かれて観劇できるようになっています。

カイザリヤの近くの海岸に出てみますと、ローマ時代に建設されたためがね橋の形をした長い導水橋が連なっていました。ローマの灌漑土木工事は、このあたりにおいても大きな影響力を持っていたのです。

4. カルメル山

地中海沿岸にはヨッパから北へ幅16キロ、南北60キロのシヤロン平野が広がっ



カイザリヤ野外劇場跡

ています。バスは、その平原を北上してカルメル山へと向かいました。カルメル山は、独立した峰ではなく、

なだらかな連山です。標高は高くても546メートルで、その一カ所、西側に地中海が展望出来るところにカルメル山でも、見晴らしのよいところに、旧約聖書列王記上17章以降に登場する預言者エリヤの活動したことを記念する場所があります。その入り口にエリヤの像が剣をかざして建っていました。（ユダヤ人は像を残しませんので、異例の建造物といえます）。エリヤはこの辺で

バアルの預言者と対決したのと思われます。西は地中海、北はシヤロン川がかすかに見えました。さらに東に今はデイル・エル・ムフラカと呼ばれる山（482メートル）にエリヤの修道院がありますが、そちらへは立ち寄りませんでした。

に東に今はデイル・エル・ムフラカと呼ばれる山（482メートル）にエリヤの修道院がありますが、そちらへは立ち寄りませんでした。

5. ナザレ

カルメル山を下ると、バスはなだらかな丘陵地帯を通り南ガリラヤ丘陵にあるナザレへと向かいます。途中は南にエズレルの野またはメギドの谷が開けています。

ナザレは、今はヨルダン西岸地域でアラブ側の住居が立ち並ぶ街です。その一角に、告知教会が建っています。ここは聖地ツアーの中に必ず組み込みたいコースです。

ナザレでの生家のあとや告知記念教会を見た後、さらに北に5キロほどのカナへ向かいました。そこはイエスが結婚式で水を葡萄酒に変えたという所です。観光のおみやげにと、カナの葡萄酒が小瓶で売っていました。

その後は、いよいよガリラヤ湖へ向かいました。次第に海拔の表示が下がり、海拔0メートル点を通過。湖畔のゲノサレに着きました。

バアル神をえなけれどエリヤには火でもて答える生ける神なり

OBI会計報告

主の御名を賛美いたします。O

BIは第6期上半期(2006年3月1日～2006年8月31日)を終了いたしましたので、ご報告申し上げます。

依然としてOBIの経済環境は

厳しい状況下に変わりはありませんが、これまで以上のコスト削減と将来への安定的事業基盤を確立すべく、現実的模索を検討しつつ歩んでまいりました。特に、山崎製パン(株)からの第3回の多額の献金をOBIの将来への先行投資として効果的に活用すべく、教師・スタッフが一体となって、学院の充実に励んできました。第5期中間と比較して、授業料収入が約50万円増加したのに対して、謝儀交通費と教室賃貸料を中心に約百万円の削減を行なうことが出来ました。その結果、第6期上半期の実績は、収入13,632,169円、支出13,627,070円、収支差額5,099円の黒字となっております。これまで

で以上の努力を継続して行なっている所存であります。

今後とも何卒、関係各位の御指導、御鞭撻の程、御願い申し上げます。

◎2006年8月～12月18日
特別献金御芳名録(敬称略)

▽個人の献金

増田誉雄 宮本三枝子 阿部恵子
小幡史朗 宮内芳枝 飯島勅
堀 肇 佐野謙次 有田貞一

◎OBI後援会献金御芳名録

▽維持会員

佐野謙次 三浦喜代子
佐野寿美子 森 登 森本馥
木下順子 世良田湧侍
猪狩友行 国東恵子 飯島多稼夫
松岡常子 浪井弘子 窪田淳子
窪井節子 有田貞一 有田美榮子
三浦秀彌 藤原導夫 佐藤敬
中川和代 増田誉雄 宮本三枝子
小林喜久男 西 満 小野沢恵子
斉藤とし子 増尾善文 田中恵子
金本悟 須子都 依田和子
関節子 福井誠 平松庸一
目崎由紀子

▽協力会員

脇坂勇 羽鳥明 金本悟

近藤はるみ

▽団体会員

中山キリスト教会

◎夏季特別献金

堀口容子 生田今日子 横田孝子
砂谷智枝 日名富子

◎冬季特別献金

三浦秀彌 久保田庸子
三浦喜代子 滝田幸恵 加茂康一
米田由起子 中島總一郎
増田慶子 窪田淳子 森本馥
日名富子 山本しづか 森 登

川村和臣 福井ちよ 福井誠

戸川啓生 OBI同窓会

宮本三枝子 島田裕子

目崎由紀子 東利雄 阿部幸平

正田孝子 飯島多稼夫 須子都

吉田加代子 木下寿子 増田誉雄

菊田洋子 宮内芳枝 大淵セツ

地引稔真 武井俊孝 浪井弘子

増尾善文・邦子 安藤谷子

小林亘 伊地智恵子 国東恵子

◎クリスマス献金

市川北バプテスト教会 伊藤淑美
宮本三枝子 宮内芳枝
OBIクリスマス祝会席上献金

OBI 第6期上半期収支報告

2006年3月1日～8月31日

第6期上半期収入	
授業料収入	4,072,652
行事収入	1,231,550
献金収入	6,789,029
助成金収入	1,500,000
その他収入	38,938
収入計	13,632,169
第6期上半期支出	
学事支出	6,027,840
行事支出	1,075,869
経費支出	5,784,892
その他支出	738,469
支出計	13,627,070
当期中間収支差額	5,099